

ピースおおさかの方向性を決める重大な局面！市民の声を届けよう！

日本と大阪の戦争責任を明らかにし、すべての大阪空襲犠牲者を追悼する「ピースおおさか」をめざして！

2014年1月

伊賀正浩

(子どもたちに渡すな！あぶない教科書 大阪の会)

(1) 2014年1月、ピースおおさかりニューアルの内容を巡って重大な局面を迎えています。2013年4月9日、財団法人大阪国際平和センター（以下、ピースおおさか）は「展示リニューアル構想」（以下、「リニューアル構想」）を公表し「リニューアル」作業を本格化させました。11月末には、「リニューアル」の基本方針を定めた「基本設計」を公表しました。2014年1月にも「実施設計(中間報告)」を作成し、3月までに「実施設計」を完成させようとしています。「実施設計」は、2月大阪府・市議会で「リニューアル予算」を編成し成立させるために、「リニューアル」の展示内容や演出方法、設備計画等を具体化したものです。ピースおおさかと大阪府・市は、2014年夏にも工事に着工し、2015年4月、リニューアルオープンする予定です。

(2) そもそも今回のピースおおさかりニューアル構想は、橋下・維新の会による激しい「偏向」「自虐的」との攻撃に対して、加害展示を大幅に削除し、大阪大空襲をアジア太平洋戦争から切り離し、その被害だけに特化する展示に転換しようとするものでした。この動きに危機感を抱いた大阪空襲被害者を始め多くの市民・団体が、ピースおおさかが20年以上にわたって掲げてきた「基本理念」を守り続けるように要望を続けました。その結果、当初の「リニューアル構想」に比べて改善が見られるもの



の、加害展示の大幅撤去という本質的な問題は残ったままです。

(3) ピースおおさかは、①大阪大空襲の記録化運動の集大成として日本で最初の本格的な空襲の常設展示を行ってきた点でも、②空襲被害だけでなく軍都大阪の役割にも着目し、被害と加害を総合的に展示する日本の平和資料館の先駆的な存在であった点でも、③大阪の反戦平和教育の中心として発展してきた点でも、極めて重要な平和資料館です。さらには、歴代内閣がアジアを含め世界に継承を表明してきた「村山談話」を具現化しているのです。その動向は国内だけでなく国際的にも注目されてきました。

早急に、ピースおおさかりニューアルについて「設置理念」を生かした展示を維持するように要望の声を届けることが必要です。

◆ピースおおさかの歴史的意義と右派からの攻撃

(1) 日本で最初の本格的な空襲の常設展示。 大阪大空襲の記録化と追悼の中心的存在。

ピースおおさかは、1981年に平和祈念戦争資料室を大阪府が開設したことを出発点としています。そこにはベトナム戦争をきっかけにして広がった大阪大空襲の記録化を進める体験者と研究者の地道な運動がありました。大阪大空襲の記憶を語り継ぎ二度と戦禍を繰り返さないということ、大阪大空襲被害者には在阪朝鮮人がおり、それは日本の朝鮮植民地化に起因することが確認されています。そして、大阪空襲被害者の記録化と国家補償を求める運動、朝鮮人中国人強制連行と強制労働の真相調査の運動、それらを子どもたちに継承しようとする教育現場での反戦平和教育等と結びつき、1991年ピースおおさかの設立となったのです。つまり、ピースおおさかの存在は、これらの運動の成果と大阪府・市民の二度と戦争を起こしてはならない決意の結晶でした。ピースおおさかは、「大阪大空襲の記録化運動と研究成果の集大成」(小山仁示さん著「現代史を見る目」)だったのです。

(2) 加害と被害を総合的に展示しようとする平和資料館の新たな取り組みの先駆け

1980年代まで全国の平和資料館が被害展示中心だった中で、ピースおおさかの誕生は、加害と被害を総合的に展示しようとする新たな取り組みの先駆けとなりました。立命館大学国際平和ミュージアム(1992)、川崎平和館(1992)、埼玉県立平和資料館(1993)、軍都広島を展示に加えた広島平和祈念資料館の改築(1994)、沖縄戦での国内外を問わず全ての犠牲者を

刻む平和の礎(1995)等々。

これらの資料館も現在、右派から加害展示について「偏向」等の厳しい攻撃を受けています。ピースおおさかの加害展示を守ることは、全国の平和資料館のあり方を左右する極めて重要な意義を持っています。

(3) 加害展示に対する右派の執拗な攻撃

1996年自民党は「全国の戦争博物館に関する調査報告書」で、全国の加害展示のある平和資料館に「偏向」攻撃を加えました。長崎原爆資料館のリニューアルを契機に「南京大虐殺」関連写真の撤去(1996年)、沖縄平和祈念資料館の新館開館にともない日本軍の住民虐殺展示、日本軍のアジアへの加害展示の撤去(1999年)、東京都平和記念館の建設凍結(1999年)、「堺市立平和と人権資料館」からの日本の加害展示の撤去(2006年)、埼玉県立平和資料館でリニューアルを口実とした加害展示撤去の動き(2013年)、等々。

ピースおおさかに対しても、自民党らは「特定のイデオロギーの宣伝活動拠点となっている」などと批判を行いました。1997年大阪府・市議会では、自民党議員がピースへの補助金削除とピース解散要求。1998年3月には「戦争資料の偏向展示を正す会」がピースの補助金中止を求める請願など、ピースおおさかの加害展示に対して攻撃を集中してきました。2000年には右派が「20世紀最大のウソ・南京大虐殺の徹底検証」をピースおおさかで開催するところまでいきました。しかし、それでもピースおおさかの加害展示は撤去されることはありませんでした。それは、ピースおおさかが、一貫して広範な市民参加による

運営を行ってきたからに他なりません。

(4) 2002年から大阪大空襲の死没者の本格的な調査と「刻の庭」(2005年8月)への名前の刻印。反戦平和教育になくてはならない存在に発展。

ピースおおさかの最大の危機を立て直したのは、大阪での地道な大阪大空襲を記録化する広範な運動でした。アメリカのアフガニスタンへの侵攻(2001年)、イラク侵攻(2003年)での無差別爆撃への怒りと危機感が背景にありました。2005年8月、ピースおおさかは「大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場」として「刻の庭」を設置し、8980名(2009年3月31日時点)の大阪空襲戦没者名が「とき」の証言として刻まれました。2009年には「刻の庭」の壁面に大阪大空襲犠牲者と同じ数(約15000個)の色とりどりのタイルが子どもたちの手によって張り巡らされました。「刻の庭」は空襲犠牲者を追悼する場として確固たる位置を占め、いまや博物館的活動にとどまらず、反戦平和教育のための施設としてなくてはならない存在となったのです。現在、小中学生の来館は全体の6~7割に達しています。

さらに加害と被害を総合的に展示するピースおおさかの姿勢は、世界各地、とりわけ中国や韓国など東アジアの人々から支持され、アジアとの友好関係を深めていく上



ピースおおさか「刻の庭」

でも重要な役割を果すものとなっています。外国人来館者は開館当時と比べて8倍となっています。

(5) 2008年橋下・維新の会登場以降のこれまでにない新たな危機

橋下知事(当時)の登場によって、ピースおおさかの危機は新たな段階に入りました。2008年橋下知事は、大阪府財政再建のための府施設の見直しの典型としてピースおおさかを取り上げました。その結果、「財政再建プログラム」において、府市から出している職員を全廃し非常勤再任用とし、2010年度からは事業費を大幅カットしました。それ以降、ピースおおさかの平和記念集会や様々な事業は、ピースおおさかを支える団体や個人によって、主に支えられてきたのです。

2011年大阪維新の会は、ピースおおさかプロジェクトチームを設置し視察と称してピースおおさかに何度も足を運び、加害展示を問題視してきました。同時期、大阪市議会・府議会においても、維新の会議員や自民党議員が「ピースおおさかを西の遊就館(*)にする」「偏向展示での反日教育、歴史をねつ造した責任は重い」等の批判を浴びせかけ、ピースおおさかの「展示室B(15年戦争)」の廃止を要求しました。

大阪府知事・市長のダブル選で維新の会が勝利してからは、ピースおおさか独自で進められてきた展示リニューアル計画は棚上げされ、大阪府市統合本部に設置された都市魅力戦略会義(部会長:橋爪紳也)によって展示内容を「ゼロベース」から検討することになりました。これ以降、展示リニューアル案は、橋下市長と松井知事、都市魅力戦略会義と大阪府市人権室主導で行われています。

突如橋下市長は、2012年5月に「両論併記」の「近現代史を学ぶ施設」構想を提案し単独の施設とする方針を決めました。そのことによって、ピースおおさか「リニューアル構想」は、「大阪大空襲中心」へ

と舵を切っていったのです。

(*)靖国神社境内にある「国防思想の普及」を目指した軍事博物館

◆「展示リニューアル」の問題点と提案

大阪空襲被害者によりそい、すべての空襲被害者を追悼する展示に！

(1) すべてのおおさか空襲被害者を追悼する展示に！

大阪大空襲とは、1945年3月13日、14日の大空襲に始まり、6月1日、7日、15日の4次にわたる大阪市街地をねらい打ちにした無差別焼夷弾攻撃と7月10日の堺市街地への焼夷弾攻撃、6月26日・7月24日の住友金属桜島工場と大阪砲兵工廠を目標とする爆撃、8月14日の大阪砲兵工廠と京橋への大空襲に至る計8回の大空襲のことです。大阪空襲そのものは約50回を数えます。その結果、大阪府内の家屋約34万戸が全焼し、罹災者約122万人、死者約1万2600人、行方不明約2000人もの犠牲を出しました。大阪市の人口は1940年に比べ3分の1に激減しました。

しかし、現在までに分かっている戦没者名は、9050名で全体の約60%です。ピースおおさかのリニューアルは、大阪空襲犠牲者の更なる調査と記録化、戦争遺物の発掘と保存作業と一体のものとして進める必要があります。

1999年 死没者名簿 約6000名
（「大阪戦災傷害者・遺族の会」が調査）

2002年 大阪府の委託により死没者の本格調査

2005年 死没者名簿 8816名

2013年 死没者名簿 9050名



ピースおおさか「展示室A」

さらに、在日朝鮮人は、大阪市街地に木造住宅に密集して住んでいたために、極めて大きな被害を受けました。大阪における被害者総数の約8.2%。それは大阪在住朝鮮人の4人に1人にあたり、空襲の被害を受けた全国の朝鮮人の35%に及びました（「特高月報」：1945年6月の大阪の朝鮮人戦災者数は83900人より計算）。これまでの展示の中では在日朝鮮人・中国人の被害についてほとんど触れられていません（「刻の庭」には、在日の人々の名前が刻まれています）。ピースおおさかが全ての被害者の追悼の場となるよう、在日の人々の被害実態と証言の収集を行い、「在日の人々の被害コーナー」を設ける必要があるのではないのでしょうか。

(2) 空襲被害者の空襲体験と戦後の苦難を十分聞き取り展示に反映を！

「基本設計」は、集客能力と採算を優先した構想になっており、大阪空襲そのもの

を十分伝えるものとなっていません。実物資料や証言も有効活用されているとは思えません。「大阪空襲中心」と言うのであれば、何よりも空襲被害者の思いに寄りそう展示内容にすべきです。被害者の戦後の苦難についても十分聞き取り、展示化の努力をすべきです。「基本設計」の「たくましく生きる大阪」では「痛手を負った人々の苦しみ」が新設されていますが、被害者が戦後国家補償から無視され続けてきたことがどの程度触れられるのか全く不明です。

リニューアルに当たっては、空襲被害者の意見を十分に聞き、展示内容を決めるべきです。しかし、2013年4月1日から館長、事務局長、事業課長、資料係、専門職員の全てが入れ替えられました。10月には、大阪空襲被害者等が参加していた「運営協力懇談会」と「平和研究所」が一方的に廃止されています。これまでピースおおさかの展示を支えてきた被害者や研究者との関係が断ち切られてしまいました。今のままの体制では、被害者の思いに寄りそう展示にすることは極めて困難です。

(3) 日本軍の重慶爆撃から米軍の大阪大空襲、そして現在につながる「戦略爆撃」の歴史を明らかにする展示を！

大阪大空襲は、アメリカによる住民と市街地を直接標的とした無差別爆撃＝戦略爆撃でした。同時に私たちは、1937年以降日本軍が中国各地で都市と住民を爆撃対象とした無差別爆撃を行ってきたことを忘れることができません。1937年から45年までに日本軍が中国の上海・南京等に投下した爆弾は24万発（うち焼夷弾は約20万発）を越えました（「空爆の歴史」（岩波新書）p53）。中でも日本軍が最も組織的・意図的に行ったのが首都重慶への戦略爆撃でした。5年間にわたり218次の空爆回数を数

え、空爆による直接の死者だけで約1万2000名にのぼっています。日本軍の重慶爆撃こそ「戦略爆撃」を掲げておこなった最初の無差別爆撃でした。アメリカ軍による日本への空襲は、都市そのものを直接の標的にした点でも、対人殺傷爆弾（焼夷弾）を多用し「空からの虐殺」（「戦略爆撃の思想」前田哲男著）をおこなった点でも、日本軍の戦略爆撃と本質は同じでした。その延長線上に広島・長崎の原爆投下が行われたのです。

ピースおおさかの創設から中心的に関わってこられた小山仁示さんは以下のように述べられています。

「私は本土空襲の体験者、かつ研究者として、今日までB29部隊による攻撃の非人道性を明らかにしてきた。P51やF6Fなどが非戦闘員の女性、児童、老人や走行中の列車に機銃掃射を浴びせたのは、いかなる点から見ても国際法に違反すると述べてきた。

しかし、というより、だからこそ、私は日本陸海軍航空隊による1939年から41年に至る重慶空襲は、敵地の奥深く侵入して、都市それ自体を住民ぐるみ爆撃対象とした市街地無差別爆撃の要件を完全に備えていたと指摘しているのである。以後、ヨーロッパでの相互報復爆撃を経て、アメリカの対日戦の最終段階におけるB29の都市空襲で無差別爆撃の軍事思想は極限に達した。その思想が核兵器の開発を促進し、技術的躍進によって、広島・長崎への原子爆弾投下につながった。『中国への都市爆撃から東京空襲に至る歴史的流れ』は、本土空襲を説明するに当たって、欠くことのできない最低必要条件である。」（「現代史を見る目」2001年3月）

戦略爆撃は、第2次世界大戦以降も朝鮮戦争での細菌・毒ガス兵器、ベトナム戦争

での枯れ葉剤、最近では湾岸戦争とアフガン戦争、イラク戦争でのナパーム弾、劣化ウラン弾、そしてクラスター爆弾へと殺傷威力を増大させながら繰り返されています。

「展示リニューアル構想」には、大阪空襲の「歴史的意義」の大項目がありました。しかし、「基本設計」からは消えています。

大阪大空襲の背景を明らかにするためにも、日本の加害と「軍都大阪」の展示充実を！

大阪空襲の歴史的意味と被害の実態を理解するためには、大阪空襲にいたる日本の侵略・植民地支配の歴史とそこでの軍都大阪の詳しい展示は不可欠です。そうでなければ、日本の戦争責任を明らかにした上で大阪空襲の死者を悼むというこれまでのピースおおさかの設置理念は失われてしまいます。

(1) 「日本が太平洋戦争に突入することになったのか」を明らかにする詳しい展示を！

「日清・日露戦争から太平洋戦争まで」の展示は「世界中が戦争をしていた時代」の中に位置づけられています。しかも「15年戦争」という言葉は削除され、日本の加害の歴史を主体的に展示するものとはなっていません。ピースおおさか設立以降の歴史研究の深まりから、本来なら「アジア・太平洋戦争」として日本の加害を包括的に問題にする必要があります。

展示内容については「日本が太平洋戦争に突入することになったのか、その経緯と終結までを概観」とあるだけです。イメージ図の中にも「歴史教科書で使われている写真や地図などを取り込み」とあり、教科書の年表のような印象を受けます。

「日本が太平洋戦争に突入することにな

かし、大阪大空襲の歴史的意義は、日本軍による重慶爆撃から米軍の日本都市への無差別爆撃にいたる歴史の中でとらえることが重要です。さらには現在も続く無差別爆撃の非人道性を断罪する歴史的展示の中に位置づける必要があるのではないのでしょうか。

った」ことを明らかにしようと思えば、日本が朝鮮半島、中国、東南アジア諸国で行った侵略と植民地支配の歴史を丁寧に振り返る必要があります。「概観」ですませることなどできません。

(2) 軍事的意味からも兵器生産の面からも日本の侵略戦争を根本で支えた軍都大阪の詳しい展示を！

①大阪は広島に次ぐ西日本最大の軍事拠点

大阪城周辺と旧大阪市立博物館には、日中戦争までは陸軍第4師団が、太平洋戦争以降は中部軍司令部が、1945年2月以降は中部軍管区司令部と第15方面軍がおかれました。中部軍司令部（中部軍管区司令部と第15方面軍）は、陸軍を5軍管区に分けたひとつで近畿と中部地方を統括するものでした。さらにこれらの軍事基地と密接につながり、武器弾薬を製造する大阪砲兵工廠、そこで製造された武器弾薬と軍隊を侵略の最前線に送り出す大阪港と神戸港がありました。大阪港（築港）は、海軍の創設とともに軍事補給基地として大改修工事が行われ、海軍商港警備府が置かれました。

大阪は、文字通り武器の製造から軍隊の

編成と指揮命令系統、それらを戦地に送り出す出撃機能を兼ね備えた兵たん基地であったのです。

②西日本の「本土決戦」の拠点となった大阪

陸軍による本土決戦態勢の確立期になると、大阪の軍事的役割は急速に拡大します。広島に拠点を置いた第2総軍の作戦計画によると四国南部と九州北部・南部を「主決戦正面」とし、近畿南部はこれに次ぐ「有力決戦正面」と位置づけました。これに基づき中部軍管区司令部は、「近畿地方総力戦準備要綱」を策定し、和歌山の大部分と淡路島を中心とする「南岸防衛地帯」に優先的に戦力結集しました。広島の軍事機能が原爆によって崩壊した後、大阪に第2総軍が移され、西日本の本土決戦の拠点となったのです。

中部軍管区司令部は、和歌山では沿岸部を中心として陣地構築を進め、内陸部の大阪では司令部を収容する地下施設の建設を急ぎました。1945年1月ごろから大阪城本丸内防空壕策定計画が具体化され、緊急徴用された大阪市民や朝鮮人労働者を城内に隔離し、5月頃までに全長300メートルの地下壕を造り上げました。

中部軍管区司令部の地下壕は大阪城内に建設されただけではありません。1944年9月からはその移転先として高槻地下倉庫群「タチソ」が建設され、第4師団の移転先として生玉公園の地下壕が建設されたとも言われています。

③大阪で編成された軍隊は何をしてきたのか

大阪で編成された軍隊は、侵略戦争の中でどのような役割を果たしたのでしょうか。日露戦争時には、第4師団が第2軍に編成され南山の闘いに参加し、大激戦の末占領しました。第4師団は、第2軍から「一

番乗りの名乗りをあげた」と絶賛されました。1931年以降は中国東北部への侵攻作戦に参加し、第4師団の青年将校の手によって平頂山の大虐殺が命令されています。1937年以降は中国内陸部へ侵攻し「抗日ゲリラ掃討作戦」に参加し、1941年以降は太平洋地域の占領作戦に参加しました。とりわけフィリピン占領作戦では、主力部隊として参加しました。大阪から派遣された軍隊の足跡をたどれば、日本がどこに侵略し、どのように占領し、アジアの人々を苦しめたか一目瞭然です。

④アジア最大の兵器工場＝大阪砲兵工廠

当時大阪は、日本の経済を支える最大の産業都市であっただけでなく、日本最大の兵器工場＝大阪砲兵工廠があり、大阪の産業が砲兵工廠下に系列化され（大阪砲兵工廠の兵器製造はその77%を大阪民間企業に外注）一大軍需工業地帯であったことを忘れることは出来ません。（「大阪市史第7巻」）しかし、武器は製造して終わりではありません。大阪砲兵工廠が製造した大砲や砲弾、戦車が中国やアジア太平洋地域での侵略戦争でどのような役割を果たしてきたのか、明らかにすることが重要になっています。

大阪砲兵工廠は、日清・日露戦争からアジア太平洋戦争全体にわたり火砲と弾薬を



当時の大阪砲兵工廠

製造し、侵略の最前線に送り続けました。1936年の陸軍「軍需整備5カ年計画」によって大阪砲兵工廠（3製造所）は7製造所に拡張され、砲弾、野戦級の焼夷弾、照明弾の増産に全力をあげました。これによって日本全体の兵器生産の36%を担う、名実ともに日本最大の軍需工場にのし上がったのです。

⑤大阪砲兵工廠なしには、日本は中国侵略を遂行できなかった

日本軍は、中国軍との激しい戦闘と南京大虐殺の過程の中で、膨大な陸上兵器を使い中国軍から一般市民まで次々と踏みにじっていきました。この南京大虐殺を軍需物資、特に兵器の供給面から支えたのが大阪砲兵工廠でした。1937年10月、陸軍造兵工廠長官が作成した「支那事変業務実施報告」によると、陸軍は兵器代として大阪砲兵工廠に兵器支払額全体の41.6%を

支払っていたことが記載されています。大阪砲兵工廠なくして日本の中国侵略は遂行できませんでした。

日本軍が中国各地に侵攻し、占領地を拡大するたびに大阪の軍需経済は沸き、中でも南京占領時には府民による「提灯行列」もおこなわれました。日本軍の南京占領2日前の11日には祝賀行事のトップを切って大阪市内全小学校児童37万人が「日の丸」の小旗を持ち市内を練り歩き、13日以降は全市をあげて祝賀大会と「提灯行列」が行われました。11日から14日までに大阪市内だけでのべ約70万人、人口の4人に1人が参加したことになります。

大阪砲兵工廠での兵器製造と中国大陸での殺戮、その都度沸いた大阪経済、これらの「戦場」と「銃後」を切り離さず、結びつけて展示し、その教訓を新しい世代に継承する必要があります。

◆至急！ピースおおさかりリニューアルに市民の声をとどけよう！

これまでみてきたように、「リニューアル」には、問題点がたくさんあります。橋下・維新の会の真の狙いは、「リニューアル構想」で「大阪空襲中心」を口実にして、「展示室B(15年戦争)」の加害展示を全面的に撤去することにあります。

小山仁示さんは、「アメリカ軍のおこなった無差別爆撃による大量虐殺の究明は、痛苦に満ちた反省とともに、日本人の加害と被害の体験を明らかにし、この地球上から核兵器をなくすこと、そして戦争をなくすことを目指す運動の重要な一環なのである。」と、述べられています。（「現代史を見る目」）ピースおおさかの設置理念にも、「第2次大戦において、大阪では50回を

こえる空襲により、市街地の主要部分が廃墟と化しました。……数多くの日本国民が尊い命を失い、傷つき、病に倒れました。同時に8月15日に至る15年戦争において、戦場となった中国はじめアジア・太平洋地域の人々、また植民地下の朝鮮・台湾の人々にも多大な危害を与えたことを、私たちは忘れません。」とあります。

ピースおおさかの設置理念を何としても守りぬき、大阪空襲の展示内容の更なる充実と加害展示の継続を求めていきたいと思いをします。

（2013年6月作成資料の改訂版）